

- **大前提**「水の深刻事故は、どこの園でも、どの子どもにでも起こりうる」 → **緊急時の想定訓練が必須**（「安全のトピックス」→「保育の安全シート」の2と「0. 緊急事態時の訓練用ビデオ」）。

- 近年の事故報道から、園のプール／水活動の安全に関心をもっている（心配している）保護者は増えていると考えられる → 保護者に「監視を置く」旨、「無理をしてプール活動や水活動をしない」旨を伝える（この手紙）。または、「プール活動をやめ、水遊びや泥遊びを積極的にする」旨を伝える（「安全」の4-4）。

- 子どもの異常に気づいたら、**その場からすぐに119番**。「上司に相談」はナシ。

-----

- 「今日はプールをやめましょう」「今日は私、監視をできません」という声が出たら、「え、やろうよ」「大丈夫でしょ」を言わない。人間は計画したこと、準備したことをやめるのが非常に不得意（例：悪天候の警報が出ているのに行事を強行）。中止すれば深刻事故は起こらないので、「やっぱり、すればよかった」と後で思うのが当たり前。だからこそ、「**やめる勇気**」が大切。

- プール活動の時間は前後にそれぞれ数十分以上の**ゆとりをもって設定**する。予定が時間通りに進むことはまずないから。そして、予定が後ろにずれこむと焦りが生じる。

- **予定の時間を過ぎてしまった場合には**、プール活動を中止して、水遊び、泥遊びにする。「早くプールを始めなきゃ」「早くプールを終わらせなきゃ」は非常に危険。

- **予定外のプール活動は絶対にしない**。プール活動の内容も明確に決める。

-----

- 監視係を必ず置く。監視係は**監視に専念**する。監視係の目印をつける。監視係に他のことを頼んではいけない。監視係が監視以外のことをしていたら、気づいた人が必ず「監視をして」と声をかける。

- 監視者は**その場から離れない**。園長や主任であっても、電話や来客は「後で」。

- **監視できない数を入れない**。「安全のトピックス」4-1の「5. うわの空になる自分を体験する」ゲームを。

- 水の中は見えにくい。「見えにくい所を見ている」「誰かが沈んでいるかもしれない」と自分に言い聞かせながら監視する。

- プールの外で遊ぶ子どもには、別の職員をつける。

- 乳児にも監視係（全体を見ている係）は必要。

-----

- 「水深が浅ければ大丈夫」「ビニールプールなら大丈夫」ではない。

- 監視係が**監視をしている様子が写るようビデオを置く**（ホームビデオで可）。「監視していた」という証拠はビデオ以外では残すことができない。

- 子どもたちの顔と名前が一致しない人が監視係をする場合については、4-1の「4. どうやって監視行動をする？」の最後を参考に。

-----

- おまけ：水の中でも**熱中症**は起こりうる。「安全のトピックス」の1-3。

- 肌が荒れるから塩素を入れない？ おむつをしている子どもを集団でプールに入れる？ プール水を介した**腸管出血性大腸菌集団感染事例**も。「安全のトピックス」の1-3。